

テレビ番組表からみた現代社会の諸相（その2）

現代社会の総理解のために

伊佐治大陸

Aspects of Modern Society Viewed from the Angle of TV Programs (2)

For All-Round Understanding of Modern Society

Tairiku ISAJI

はじめに

現代社会の総理解という目的実現の手段として、筆者は新聞に毎朝掲載されてくるテレビ番組表（以下、TV番組表と表記）に注目し、そこから現代社会の理解のためのキーワード（Key words, 鍵的用語）を析出する作業を行ってきた。前回（'80年7月～'81年6月）の続きとして、今回は'81年7月～'82年6月にいたる1年間のTV番組表がその素材対象である。TV番組表は、NHK総合TV、NHK教育TV、名古屋（NBN）TV、中日（CBC）TV、東海（THK）TV、中京（CTV）TVの合計6局を対象としている。

夏の浜辺の貝ガラを拾い集めるように、冬の夜空の星を数えるように、TV番組表のワード群を毎日じっとにらんでいると、雑多で玉石混交のワード群の中には奇をてらったり見かけ倒しのものも少なくないが、あざやかに消え去る流れ星や美しいさくら貝を発見できることがある。こうした流れ星やさくら貝（現代社会の総理解のためのキーワード）の数は、この1年間で合計188ワードとなった。このうち105ワードは'81年後半、83ワードは'82年前半のTV番組表に現われたワードである。平均して2日に1つの割合でワードを析出したこととなる。

今回は同一ワードの出現頻度にも注意した。中には、この1年間でTV番組表に複数回数登場した「大型」のワードもいくつかある。そのベスト4（頻度3回以上）は、「カラパゴス」「シモーヌ・ベイル」「ストレッチング」「Dr スランプ」の4ワードである。TV番組表からみる限り、この4ワードが現代社会を最もよく表現しているということができよう。次によく登場した「中型」ワード（頻度2回）をあげておこう。それは、「アスマット」「アビリンピック」「アラレちゃん」「遺伝子工学」「イネミズゾウムシ」「エリカ号」「OA」「家庭内暴力」「クロード・チアリ」「シュナイター学校」「シーレーン」「心身症」「タスポニー」「なめ猫」「ねむの木学園」「パソコン」「フリズビー」「ホバークラフト」「ヤンバルクイナ」「ロボコン」（あいうえお順）の20ワードである。

筆者は、これら「大型」「中型」を含む188のワードの中から現代社会の総理解のための60のキーワードを精選した。キーワードであるからにはできるだけ少数のほうが好ましいのであるが、前回同様、60を適当な標準数だと考えた。過去の歴史的諸事実が現代に尾を引き現代社会を形づくっているのだとの考え方から、60のキーワード精選にあたっては時事的なワードだけに絞る立場は取らなかった。現代社会をあらゆるジャンルからトータルに理解するためである。自己の好みに制約されつつもできるだけ客観的に重要と思われるキーワード60に絞る過程の中で、止むなく割愛したワードは多々ある。それらは、「アラファト議長」「カラノス症候群」「シモーヌ・ベイル」「趙紫陽」「ねむの木学園」「ヘルペス」「ミニコヤンカ峰」

等々のワードである。

こうして出来上がった一枚の「キーワード・ピクチャ」(’81年7月～’82年6月)が、あるいはお順に配列されたFig.1である。Fig.1の作成において、60のキーワードの中には多少の表現訂正をほどこしたものがある。それは、「OA時代」を「OA」,「QC運動」を「QC」,「オタワ・サミット」「ヴェルサイユ・サミット」を「サミット」,「ストレッチ体操」を「ストレッチング」,「ダイアナ嬢」を「ダイアナ妃」,「ミバエ」を「地中海ミバエ」,「腕時計テレビ」を「テレビ・ウォッチ」,「人間万事塞翁が丙午」を「人間万事塞翁が馬」,「P3C」を「P3Cオライオン」,「ホームヘルパー」を「ホームヘルプ事業」,「ルービック」を「ルービック・キューブ」と文字の訂正加除を行なった点である。後で展開するキーワードの強い認識のための説明にとって、このような表現訂正は適切だと考えたからである。

Fig.1は’81年後半～’82年前半のTV番組表から抽出した現代社会を表わす素材としての「キーワード・ピクチャ」の下絵とでもいうべきものである。この下絵を分類・整理して立体的に構成し、一枚の完成作品「キーワード・ピクチャ」として示したものがFig.2である。Fig.2の作成にあたっては、前回は、ブロックIのキーワードからブロックVIIのキーワードまで「時事・国際問題」,「学芸常識」,「現代科学」,「現代生活」,「社会風俗」,「スポーツ・レジャー」,「TVに登場した7人の人物」——と7ブロックにグルーピングしたのに対して、今回はこれに基づきつともやや修正を行なった。すなわち、ブロックIのキーワードからブロックVIIIのキーワードまで「国際問題」,「時事問題」,「学芸常識」,「現代科学」,「現代医学」,「現代生活」,「スポーツ・教育問題」,「TVに登場した7人の人物」——と8ブロックに分け、ブロックの名称もやや変えたものがある。ブロックVについては、人々が健康に強い関心を示す「ヘルシー時代」であるためかTV番組表にも現代病や医学関連用語が目につき、一ブロックを独立させてみた。ブロックVIIでは体育と知育の結びつきを考慮して「スポーツ・教育問題」を一まとめにした。ブロックVIII「TVに登場した7人の人物」については本来IからVIIのいずれかのブロックに含むべきであるが、「時の人物」の意味から最後に一つのブロックを設けたことは前回同様である。Fig.2の「キーワード・ピクチャ」は勿論一つの試みとしてのグルーピングであり、他の方法による分類・整理が考案されてもいい。ただ、実際にグルーピングを行なってみると、複数のブロックへのクロスオーバーのため分類に悩まされるワードもどうしてもいくつか出てくる。

さて我々が普段用いているワードでも、これを明確に強く認識するためには、そのワードの文章化を行なうことが最もよい方法である。ここでも各ブロックの順序に従ってそれぞれのキーワードに関する定義・説明の文章化を行ない、それによって現代社会の総理解を一層具体的に深めることにしたい。新しく話題になったことや新造語のキーワードも少なくない。こうした現在進行形のワードについては書物・事典で調べても出ていかなかったり記述が曖昧である。従って定義・説明は流動的・変動的となる局面も持つが、「現代用語の基礎知識」「世界大百科事典34(現代)」「世界大百科年鑑1982」など最後に示すいくつかの文献を参考にしつつ、可能な限り簡潔・明瞭な文章化に努めた。なお、「本紀要投稿規定」の条件にできるだけ従うため、本稿(その2)ではFig.2の前半(ブロックI～VI)を扱い、後半については別稿(その3)に譲ることとした。

Fig. 1 Key Words Picture I

(1) ASEAN	Association of South-East Aseian Nations
(2) アビリンピック	abilimpic
(3) アルビン・トフラー	Alvin Toffler
(4) エリカ号	ERICA
(5) エスコリアル	El Escorial
(6) エルミターージュ美術館	Gosudarstvennyi Ermitazh (Эрмитаж)
(7) OA	office automation
(8) OPEC	Organization of Petroleum Exporting Countries
(9) オーマン	Oman (Saltanaal-Uman)
(10) 角膜移植	Kelatoplastik
(11) 家庭内暴力	violence in the home
(12) ガラパゴス	Galápagos
(13) 川崎病	MCLS (mucocutaneous-lymphnode-syndrome)
(14) QC	quality control
(15) クライマー・クライマー	Kramer vs. Kramer
(16) グロキニシア	Gloxinie
(17) ケーニヒスベルクの橋	crossbridges in Königsberg
(18) コインランドリー	coin laundry
(19) サミット	Summit Meeting
(20) 産業用サミット	industrial robot
(21) 集合型高等学校	group system of high schools
(22) シュタイナー学校	Steiner Schule
(23) シーレーン	SLOC (Sea Lanes of Communication)
(24) 心身症	Psychosomatische Krankheit
(25) ストレッチング	stretching
(26) 脊柱側弯症	Skoliose
(27) ゼロサム社会	zero-sum society
(28) 戦艦大和	YAMATO
(29) ダイアナ妃	Princess Diana
(30) タリウム	Thallium
(31) 地中海ミバエ	Medfly (Mediterranean fruit fly)
(32) チャランゴ	charango
(33) つつが虫病	Tsutsugamushi-Krankheit
(34) テラピア	Tilapia
(35) テレビ・ウォッチ	television watch
(36) 東北新幹線	The Tōhoku Shinkansen Line
(37) Dr. スランプ	Dr. Slump
(38) トットちゃん	TOTTO-CHAN
(39) ナウマン象	Naumann Elephant
(40) NASA	National Aeronautics and Space Administration
(41) ナミビア	Namibia
(42) 西本幸雄	Yukio Nishimoto
(43) 人間万事塞翁が馬	Inscrutable are the ways of Heaven.
(44) 光ファイバー	optical fiber
(45) P3Cオライオン	P3C, Lockheed, Orion
(46) ヒスタミン	Histamin
(47) フォークランド	Folkland
(48) 福井謙一	Kenichi Fukui
(49) ブリキの太鼓	Die Blechtrommel
(50) フリズビー	Frisbee
(51) 偏差値	T-score
(52) 北方領土	the northern territories of Japan
(53) ホバークラフト	hovercraft
(54) ホームヘルプ事業	Homehelp Service
(55) ポンパドール	ponpadour
(56) マッケンロー	John Mc-Enroe
(57) ヤンバルクイナ	Rallus okinawae
(58) 横溝正史	Seishi Yokomizo
(59) ライシャワー	Edwin O. Reischauer
(60) ルービック・キューブ	Rubic Cube

ブロックⅠのキーワード	アジア問題	(1) ASEAN
「国際問題」	石油問題	(8) OPEC
	国際政治	(19) サミット
	国際紛争	(41) ナミビア
	領土問題	(47) フォークランド
		(52) 北方領土
	防衛問題	(23) シーレーン
ブロックⅡのキーワード	軍事問題	(45) P3Cオライオン
「時事問題」	社会福祉	(2) アビリンピック
		(54) ホームヘルプ事業
	世界時事	(9) オーマン
	経営問題	(14) QC
	海底探査	(28) 戦艦大和
	貿易摩擦	(31) 地中海ミバエ
ブロックⅢのキーワード	野鳥	(57) ヤンバルクイナ
「学芸常識」	建築物	(5) エスコリアル
		(6) エルミタージュ美術館
	数学	(17) ケーニヒスベルクの橋
	楽器	(32) チャランゴ
	化学	(30) タリウム
	園芸植物	(16) グロキニシア
	地理・生物学	(12) ガラパゴス
	動物	(34) テラピア
ブロックⅣのキーワード	交通問題	(39) ナウマン象
「現代科学」		(36) 東北新幹線
	現代工学・情報化社会	(53) ホバークラフト
	エレクトロニクス	(7) OA
		(20) 産業用ロボット
		(35) テレビ・ウオッチ
	光学機械	(44) 光ファイバー
ブロックⅤのキーワード	宇宙開発	(40) NASA
「現代医学」	医学	(10) 角模移植
		(13) 川崎病
		(26) 脊柱側弯症
	育児	(24) 心身症
	家庭園芸	(33) つつが虫病
	生化学	(46) ヒスタミン
ブロックⅥのキーワード	時代感覚	(27) ゼロサム社会
「現代生活」	アメリカ映画	(15) クレーマー・クレーマー
	西ドイツ映画	(49) ブリキの太鼓
	漫画	(37) Dr スランプ
	出版・マスコミ	(38) トットちゃん
		(43) 人間万事塞翁が馬
	美容	(55) ボンパドール
	社会風俗	(18) コインランドリー
ブロックⅦのキーワード	スポーツ	(60) ルービック・キューブ
「スポーツ・教育問題」		(4) エリカ号
		(25) ストレッチング
		(50) フリズビー
	教育問題	(11) 家庭内暴力
		(51) 偏差値
		(21) 集合型高等学校
ブロックⅧのキーワード	未来学	(22) シュタイナー学校
「TVに登場した7人の人物」	イギリス王室	(3) アルビン・トフラー
	ノーベル化学賞	(29) ダイアナ妃
	スポーツ(野球)	(48) 福井謙一
	(テニス)	(42) 西本幸雄
	推理小説	(56) マッケンロー
	防衛問題	(58) 横溝正史
		(59) ライシャワー

ブロック I のキーワード「国際問題」の理解

A S E A N

タイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、インドネシアの5カ国が'67年に経済、外交面などで共同歩調をとるために結成した東南アジア諸国連合で、機構は常設委員会と外相会議から成る。結成当初はヴェトナム戦争激化を背景に反共色が強く、加盟国は親米・反共国としてアメリカのヴェトナム侵略に何らかの加担をしてきた。しかし米中接近、米ソ協調、パリ和平協定など緊張緩和の機運が高まると、インドシナ諸国との共存・中立化による安全保障を旨とする動きを示した。'76年開催の首脳会議は、域内の平和、自由、中立化構想の実現を旨とする「バリ島宣言」と、インドシナ社会主義国との平和共存をうたう加盟国相互の「友好協力条約」が調印された。'77年の第二回首脳会議は日本、オーストラリア、ニュージーランドも参加した拡大会議で、出席の福田首相（当時）は工業化計画に10億ドルの援助を約束した。'81年1月の鈴木首相訪歴を機に日本との経済面での結合が強化されている。一方、カンボジア問題、難民問題などの一連の事態の中で、A S E A Nは中立化よりも安全保障機構化、軍事機構化の傾向を強めつつある。

O P E C

'60年、イラク政府の招請によりイラン、クウェート、サウジアラビア、ベネズエラの代表が集まり、5カ国で結成した石油生産輸出国の協議会（本部ウィーン）である。産油国間の石油政策協調と、そのための情報収集・交換の組織であり、石油収入の安定確保、価格下落の防止を旨としている。現在はインドネシア、リビアなどが加わり13カ国加盟の国際組織である。世界の原油生産量の半分を握り、世界経済・政治に大きな影響力を持つ。

'76年、カタールのドーハで開催の第四十七回O P E C総会では、5%値上げに止めるとするサウジアラビア、アラブ首長国連邦（U A E）と10%値上げ派の他の11カ国に分裂した。以来、O P E Cは強硬派と穏健派に分れ、総会のたびに価格と生産政策で対立を続けている。

サ ミ ッ ト

山の頂を意味する summit から類推できるように、主要先進国首脳による実力者会議である。フランスのジスカールデスタン大統領（当時）の呼びかけで'75年から毎年1回行なわれている。第一回ランブイエ、第二回サンファン、第三回ロンドン、第四回ボン、第五回東京、第六回ヴェネチア、第七回オタワと続いて、第八回は'82年6月、社会党から登場したミッテラン大統領がホストとなってパリ郊外のヴェルサイユで開催された。東京サミットのように頭に開催地名を冠することが一般化している。イタリアの水の都で開催のヴェネチア・サミットでは大平首相急死のため大来外相ら代表団は首相の遺影を抱いての参加であった。オタワ・サミットでは政治・経済の両面で西側先進国の協調強化と経済の再活性化をうたったオタワ宣言が採択され、ヴェルサイユ・サミットではフォークランド紛争が大きな問題の一つとなった。

ナ ミ ビ ア

南アフリカ共和国が面積82000km²、人口90万人のナミビアを信託統治していたが、これを国連に移管せず南ア共和国主導で独立させようとしたため、南西アフリカ、国連と対立が続いている。これがナミビア問題で、南部アフリカにおける未解決の地域紛争である。

'80年、ジンバブエ（旧ローデシア）が黒人多数支配を実現して独立後、南ア共和国はアパルトヘイト（人種隔離政策）を手直ししつつ体制固めを図り、一方で自国の主導下でのナミビア独立に全力を挙げている。'79年のランカスター合意後に独立したジンバブエでは、総選挙でジンバブエ・アフリカ民族同盟（Z A N U）が圧勝してロバート・ムガベ議長が初代首相に就任した。彼は社会主義国家建設を掲げつつ西側寄りの現実的政策をとっている。しかし部族基盤の異なるジンバブエ・アフリカ人民同盟（Z A P U）

との対立から'80～'81年に武力衝突が起きた。南ア共和国に同情的なレーガン米政権誕生後は、南ア共和国はかいらい自治政府を軸に自国に有利なナミビアの独立を狙い、黒人解放組織の南西アフリカ人民機構（SWAPO）を軍事的に一扫する作戦に出ている。国連が同地域の真の代表と見なしているのは、このSWAPOである。'81年1月のジュネーブでの初のナミビア全当事者会議では、南ア共和国は国連のナミビア独立案を時期尚早だと拒否した。8～9月にSWAPO根拠地をたたくことを理由にアンゴラに大規模越境攻撃をかけ、批判を浴びた。国連とは別に米、英、西独、仏、加の5カ国折衝グループが動いており、「'83年1月までの独立達成」を内容とする解決案を用意し、ナミビア問題の平和的解決を目指している。

フォークランド

フォークランド諸島は旧スペイン領であったが、イギリスが1833年に占拠した。これより前1833年独立のアルゼンチンはスペインからの継承権を主張していた。こうしてフォークランド紛争の種は古い。しかし紛争は、'82年2月、英・ア領有交渉でアルゼンチン側の月例協議移行案をめぐる事実上の決裂に直接の端を発する。3月、アルゼンチン「解体業者」が南ジョージア島に上陸しア国旗を掲揚した。4月、アルゼンチン軍はポートスタンリーを武力占領し、フォークランド諸島領有を宣言した。イギリスはこれに対抗してアルゼンチンとの国交を断絶し、5月にポートスタンリー初爆撃を行なった。紛争は激化し、6月には英軍が島都本格攻撃を開始した。同月中旬ようやく英・ア軍は暫定停戦に合意し、サッチャー首相は議会で「ア軍が白旗、降伏」と勝利宣言を行なった。この紛争は最新鋭電子ミサイル(Missile)兵器の一大実験の場となり、電子工学応用の電子ミサイル戦であった。

この種の紛争は世界で絶え間がなく、わが国でも、中国との間に尖閣列島、韓国との間に竹島、ソ連との間に北方四島の領土問題が未解決である。

北方領土

根室市の東、オホーツク海上の歯舞群島（貝殻島、水晶島など）、色丹島、国後島、択捉島をまとめて北方四島という。17世紀、すでに四島に日本人が住居・開拓し、1855（安政元）年締結の日露通好条約では日本の領土として認められている。条約で国境は択捉島とウルップ島の間とし、ウルップ島以北のクリル諸島（千島列島）がロシア領と決められた。

1945年8月、終戦直後にソ連軍は北方四島に侵入・占領した。日本は戦後の'51年サンフランシスコ条約で南樺太とクリル諸島を放棄したが、日本政府は北方四島はクリル諸島に含まれず、歴史上他の国の支配を受けないわが国固有の領土だとして一貫した立場を堅持している。政府は'81年より2月7日を「北方領土の日」と定めたが、四島の現実にはソ連の軍事基地化の様相を示している。択捉島は佐渡島の3.5倍で、四島の周囲はサケ、マス、コンブの屈指の漁場である。しかし領土問題未解決のため、北方水域での日本人漁民の「安全操業」は脅かされている。北方領土は日ソ平和条約交渉の最大の課題である。ソ連は北方領土問題はすでに解決済みで存在しないとの立場をとっている。

シーレーン

一般的には船舶の海上航路をさすが、特にわが国の安全保障関連でSLOCとは有事に際してソ連海軍の潜水艦などによる海上交通路遮断作戦に対応し、日本、アメリカなどが確保すべき航路帯を意味する。

'81年5月、鈴木首相訪米の際の日米共同声明で確定された日米防衛分担の海上防衛に関する分野では、「約1000カイリの東西航路（関東ーグァム）、南西航路（関西ーフィリピン）の防衛分担」について言及している。アメリカは第七艦隊など西大西洋の戦力をペルシャ湾やインド洋に振りむける必要に迫られ、手薄の日本周辺海域の海上防衛を日本が担うことを望んでいる。なお、国際海峡の通過については、沿岸国の指定するSLOC又は通航分離帯の通航が義務づけられている。この一定制限のもとに船舶の航行と航空機の上空飛行は自由に行使できる。

P 3 C オライオン

アメリカのロッキード社がP 2の後継機として開発した対潜哨戒機で、P 3 A、P 3 Bに次いで開発された。深海の潜水艦は航跡や音を残さず、光線・電波も通さないため現代海戦上の脅威である。これを空から捜索し攻撃作戦を立てるのが対潜哨戒機である。海面スレスレを低空で長時間哨戒する。

P 3 Cは最大速度413ノット、行動半径1700カイリで、全長35.6 m、全高10.3 mある。磁気探知装置(マッド)や水中投下して潜水艦の位置をとらえるソノブイなどを持つことは従来のものと同じだが、P 3 Cにはロッキード社の独自開発によるB-N E Wシステム装置が備えられている。これは潜水艦探知から攻撃武器選定までをコンピュータ処理する装置である。対潜能力はわが国のS 2 Jの10倍といわれ世界最強を誇る。防衛庁はP 3 C導入を決定し、'81年4月その第一機が引渡された。'82年中には10機以上になると予測されている。

ブロックⅡのキーワード「時事問題」の理解

アビリンピック

身体障害者技能競技大会のことで、ability(可能性)とOlympic(オリンピック)の合成語である。世界的に認められた和製英語である。障害者の生産的可能性を引出し誇示するオリンピックで、日本では'72年秋に第一回大会が開かれて後、毎年実施されている。競技は旋盤、洋裁、製図、木工、英文タイプ、ラジオ修理など20種目にわたる。大会の精神は純スポーツのパラリンピック(Paralympic)以上に参加第一を旨としている。

国際障害年にちなんで'81年秋には日本で第一回国際アビリンピックが催された。東京体育館には世界各国から身体障害(盲者を含む)の選手が集まり、各種技能を競った。この初の世界大会には54カ国から813名の選手が参加した。

ホームヘルプ事業

低所得、病気その他の家庭事情により通常の生活を営むのに支障のある家庭にホームヘルパー(home helper)を派遣し、家事・介護・相談・助言を行なう事業である。19世紀後半にスイスで始まり、20世紀に入り各国に広まった。日本では'56年の長野県の家庭養護婦制度発足が始まりである。'61年に東京都で社会福祉協議会への委託事業として保護世帯の老人を対象に実施され、その後全国的に普及した。ホームヘルプ事業の実施主体は原則的に市町村である。

従来、ホームヘルプ事業は年収394万円未満の低所得家族の寝たきり老人を対象に、週1回奉仕員を派遣し介護していた。しかし寝たきり老人のホームヘルプに対する需要は年々高所得層家庭にも拡大している。そのため東京都では'81年春より高齢化社会、高福祉・高負担の新しい福祉理念をふまえ、中流所得層にもヘルパー派遣制度の枠を広げ所得に応じた利用料を支払う有料福祉を本格化させた。このため東京都ではホームヘルプ事業の利用家庭は1700世帯から9100世帯へと大幅に拡大した。

オーマン

正式国名はSaltanaal-Uman(Sultanate of Oman)といい、中東の小国で産油国である。面積は日本の約半分で人口は89万人、佐賀県の人口よりやや多い。住民はアラブ人88%で、他にバルーチ族、イラン人などがいる。言語はアラビア語、ペルシャ語、ウルドゥ語が使われている。政体はスルタン首長国で、元首は首長のカブース・ビン・サイドである。彼を中心に超党派的内閣が構成されている。国連、アラブ連盟に加盟しているがO P E Cには非加盟である。一人当たり国民所得は'76年現在2400ドルであり、日本の1/3弱である。国家収入の90%は石油輸出である。オーマンにとって日本は産油50%を引き取る重要貿易相手国である。'79年の対日輸出は13億4000万ドル、輸入は1億9000万ドルである。

Q C

最も低いコストで望ましい品質の製品を生産し、維持・向上させるために用いられる経営管理手法である。企業の合理化、科学化の方向に沿って発展した品質管理である。QC発祥の地はアメリカで、1931年、シュハート(W.A. Shewhart)により始められた。

QCで用いられる技術の一つに管理図法がある。これはグラフを用いて品質に関する測定値を表し、それに2本の管理限界線を記入して品質の変動を管理するものである。品質のバラツキが上下にはみ出た時は品質改善措置をとらなければならない。管理図法の他に層化法、対照法、相関法などがあるが、QCではよく統計学が応用される。現在、日本の企業ではQCサークルと銘うって全社的に各職場で少人数のQC活動が展開されるケースが多い。

戦艦大和

戦艦大和は、太平洋戦争末期の'45年4月沖縄に向かう途中、米軍機の集中攻撃を受けて沈没した。正確な沈没地点はナゾに包まれていたが、「大和探索会」は'81年5月からの第三次探索の結果、北緯30度43分17秒、東経128度4分の海底に沈没する大和を確認したと発表した。沈没後「37年目の確認」がはたされた戦艦大和は、長崎県男女群島約176kmの東シナ海海底340mに多数の日本海軍兵士とともに今なお静かに眠り続けている。

地中海ミバエ

アメリカ・カリフォルニア州で果物(レモン、オレンジ)の敵「地中海ミバエ」が異常発生した。'81年8月、大河原大使はカリフォルニア産果物の対日輸出自粛を要請し、新しい貿易摩擦問題となった。オレンジなど柑きつ類につく地中海ミバエは繁殖力が強く、日本に上陸したときミカン農家を脅かす恐れがあるため、日本政府はカリフォルニア産柑きつ類の輸入を停止し、カリフォルニア州果実生産者団体はこれに反発した。このミバエ問題は殺中剤(有機リン剤)の空中散布でミバエが姿を消し、'82年春に日本政府が規制を緩めて収まった。地中海ミバエは体長5ミリほどのハエの一種で、熱帯アフリカが原産地であるが地中海地方に広く生息するためこの名称がついている。ミバエ(地中海ミバエ、ミカンミバエなど)は重要病害虫の一種である。

農林水産省植物防疫所では、植物を介して海外から潜入する病害虫を阻止するため輸入検疫を行なっている。諸外国の要求に応じた輸出検疫、重要病害虫の国内における慢延を防ぐための国内検疫や重要病害虫の緊急防除を実施している。戦後の混乱期を除いて、これまで、アメリカシロヒトリやミバエなどの重要病害虫の大部分は侵入が阻止されてきた。

ヤンバルクイナ

沖縄本島北部の原生林に新種の鳥が生息しているのを山階鳥類研究所が発見し、'81年11月これを公表した。クイナの一種で学名はラルス・オキナワエ、和名はヤンバルクイナと命名された。ヤンバルクイナは飛ぶことを忘れた鳥で、成鳥は全長30cm、背の高さ22cm、体重300~430gほどになる。小さな翼、赤色の強力な脚、先端部がアイボリー色で太くて赤いくちばしが特徴である。猛スピードで走り、深い草むらの中を潜行するので姿を見せることは稀である。警戒心が強く人の姿を認めるとすぐ草むらに逃げ込んでしまう。

クイナは、従来ヒメクイナ、シマクイナ、ヒクイナ、シロハラクイナなどの種類が日本に生息している。国内での鳥の新種発見は、黒田長礼による1922年のクロウミツバメ発見以来、59年ぶりのことであり、飛べない鳥の北限とみなされる沖縄県はヤンバルクイナを県の天然記念物に指定した。

ブロックⅢのキーワード「学芸常識」の理解

エスコリアル

スペインのマドリッドに近在する王宮である。16世紀初頭、スペインの絶対主義国家化を図った国王カルロス一世は自己の絶頂期に引退を決意し、エストレマドゥーラ地方の僧院に引きこもって死を待ったが、同世紀後半のスペイン絶頂期の国王である息子のフェリペ二世もこれにならい、僧院への引退を望んだ。そこで建てられたのがスペインの黄金の宮殿といわれるエスコリアルである。歴代王の廟所として作られ、同時に僧院でもあったが、ここに引きこもって政務もとられたから宮殿でもある。

エスコリアルはグァダラマ山脈の広い谷間にある。フェリペ二世がフランス軍に勝った8月1日が聖ロレンソ殉教の日であったので、エスコリアルは聖ロレンソに捧げられた。2600個の窓を持つこの建物は2人の建築家により1584年に完成した。全体の建築プランは聖ロレンソを苦しめた拷問具から着想されている。

廟所、僧院、宮殿と目的が聖俗両面にわたるため、建築はそれにふさわしい二面性を兼ね具えている。あり余る富を注ぎ込んだ豪華さの中に敬虔で質素な信仰心の厚さがかもし出されている。建築が魂の指向性を満たし、カスティージャの心がよく表現されているといわれる。マドリッド近在には、この他にアラソスとラ・グランハの二王宮がある。

エルミタージュ美術館

ソ連のレニングラードの中心部、ネワ川の岸にあり、帝政時代は冬宮と呼ばれる皇帝の宮殿であった。現在は200万点以上の収蔵品を持ち、ルーブル、大英博物館、メトロポリタン美術館と並ぶ大美術館として有名である。

1711年ピョートル大帝が建て、女帝のエカチェリーナ2世が伝説でエルミタージュ（隠れ家）と名付けた広間にヨーロッパで買い集めた美術品を飾ったのが始まりである。1917年、この冬宮にたてこもった臨時政府が攻め落とされ、ロシア革命は無血で成功した。革命後、美術館となった。西欧名画には、ダ・ヴィンチ、ラファエロ、ミケランジェロ、ルーベンス、レンブラントなどの逸品があり、古代遺物、宝石装飾品も豊富である。バロック風の建物内部のインテリアは圧倒的な素晴らしさを誇っている。なお、エルミタージュ美術館秘蔵のレンブラント(Rembrandt)の絵画は、'82年に日本での初公開が実現された。

ケーニヒスベルクの橋

ケーニヒスベルクはドイツの古い都市（現・ソ連領カリーニングラード）で、この市の中央をプレーゲル川が流れている。この川に図のような①～⑦の橋が4つの町N、W、I、Sをつなぐ形でかけられている。「どこから始めてもよいが、この7つの橋をすべて一度、しかもただ一度だけ通るような散歩の仕方があるか？」これがケーニヒスベルクの橋の問題である。

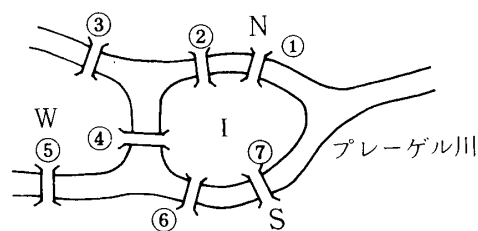


図1 ケーニヒスベルクの橋

1736年、スイスの数学者オイラー(L. Euler, 1707~1783)は実に明解な解答をこれに与えた。町N、W、I、Sを点、①～⑦の橋を線と考えると、ケーニヒスベルクの橋は図-2のようになる。問題は「NからSまでの4点のどこかの点を出発し、①～⑦のすべての線をそれぞれ1回だけ通り、NからSまでの4点のどこかの点に到着することができるか？」と整理することができる。例えば、点Wから書き始め、一筆がきでこの図を書くことができるかという問題になる。オイラーはこ

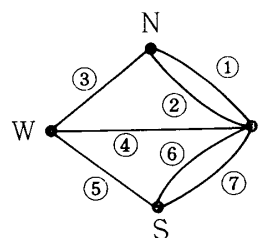


図2 一筆がき

うして解決を与えると共に、今日のグラフ理論の基礎を作った。一般に、グラフを一筆がきできるための必要十分条件は、点と点を線で結んだ図の中で、すべての点が偶点であるときか、奇点が2個だけで残りの点はすべて偶点であるときだけである（グラフにおいて、頂点を端点とする線の個数が奇数のとき奇点、偶数のとき偶点という）。ケーニヒスベルクの橋の場合、4点N, W, I, Sはすべて奇点であるから、一筆がきは不可能であると彼は証明した。数学は、問題を解決するのに必要な事項を発見し、問題点を簡単な形にして考えやすくすることを教えてくれる。

チャランゴ

ペルーのアンデス地方に住むインディオの間にインカ時代から伝わる素朴な民俗楽器である。南米アンデス地方のインディオがfolklore演奏に愛用しているギター系の小型弦楽器で、胴の裏には動物のアルマジロ (armadillo) の皮が張ってある。骨質の甲で覆われたアルマジロは穴掘りがうまく、死肉や小動物を食べるが、中部及び南アメリカに生息している。チャランゴは複弦五対を持ち、細かくリズムを刻んで演奏するfolklore演奏には欠かせない。

ボリビアの作詩・作曲家エルネスト・カブールは民俗音楽が商業主義に毒されるのを嫌い、長い間「幻のチャランゴ奏者 (charanguero)」とのあだ名で呼ばれてきた。彼は民俗音楽普及のために、世界最初のチャランゴ教則本を自費出版した。天才的なチャランゴ奏者であると共に、自らチャランゴを製作し、国の経済援助なしにアンデス各地に埋もれる民俗音楽の採譜を行なっている。

タリウム

タリウムの原義は「緑の芽」であり、スペクトルに現われる美しい緑線を意味する。鉛に似た性質を持つ金属元素の1つである。元素記号Tl, 原子番号81, 原子量204.37で、クルックス (W. Crooks, 1832~1919) が分光法によって1861年に発見した。天然には硫化鉍物又はある種の雲母中に微量に存在する。帯青白色の金属で、そのスペクトルは美しい緑色を呈するため人工宝石の製造によく利用される。

重金属タリウムは病院の臨床検査でも利用されるが、取扱いを誤ると中毒にかかることがある。'81年9月、福岡大病院では7人がタリウム中毒にかかった。

グロキニシア

発見者、ドイツの植物学者B.R. Gloxinの名に因んでつけられた。ブラジル原産のイワタバコ科の観賞用多年草である。20~25種あるが、日本でも改良されて温室栽培されている。葉は卵形多肉でピロード状の短毛を持つ。花茎は15cm, 頂にそれぞれ一花をつける。合弁花冠は大きく辺縁は浅くて五裂している。色は白・紫・紅など種々ある。オオイワギリソウとも呼ばれる。グロキニシアはすでに明治初年に日本に渡来し、明治35(1902)年の正岡子規の随筆「病状六尺」にも登場する。

ガラパゴス

galápagos はスペイン語でカメをさす。この島にゾウガメという大きなカメがたくさんいることから名づけられた。ガラパゴスは太平洋中の火山群島であり、エクアドル領で同国の西方約960kmにある。珍しい動物に富んでいる。面積は7,845km², 人口は約1,300人である。

1535年、スペイン人のベルランが発見した。1835年、ダーウィン (Charles Darwin, 1809~'82) は、ビーグル号でこの島を訪れ、島の動植物を研究した。この観察は彼が「種の起源」(1859)として「進化論」(evolution theory)を主張するための根拠となった。彼の死後100年にあたる今日、特にこの1~2年はダーウィン説を批判的に見直す動きが目立っている。

テラピア

成長が早い食用の熱帯産淡水魚である。原産地はアフリカであるが、現在では東南アジアの川に多く住んでいる。黒鯛に似て美しく、尾ひれの末端は朱色である。

1954年にタイ、台湾から輸入され岐阜県吉城郡上宝村平湯温泉で飼育が始められた。水温は20°～35°Cが適温、フ化してから2～3カ月で8～9cmとなり成魚として産卵を開始する。卵はメスの口中でフ化し、口中で育って稚魚となるが、フ化後しばらくは外敵に会うと母魚は子魚を口中に入れて守る習性がある。このため、別名マウス・ブリーダー（子守魚）と呼ぶ。普通10カ月で18～20cmになるが大きなのは36cmにもなる。

ナウマン象

明治8（1875）年、日本政府の招きで来朝し、10年間日本各地の地質を調査したドイツの地質学者、E. Nauman(1850～1927)に因んでつけられた象である。彼は琵琶湖西岸で初めて象の化石を発見した。地質年代からみると洪積世に日本には象がいたことが証明されたのである。

彼は東京開成学校、東京帝国大学で地質学の講座を担当する一方、日本列島の地質構造を調べてフォッサマグナによる東北日本と西南日本の分類や全国地質図の作成を行なった。

ブロックⅣのキーワード「現代科学」の理解

東北新幹線

東北の人々の待望久しい東北新幹線（東京～盛岡間）は、'82年6月に大宮～盛岡間が暫定開業した。国鉄は'84年の上野開業方針を発表している。新幹線は日本の主要都市を結ぶ標準軌間（レールの内側1,435mm）の国鉄超高速鉄道である。東北新幹線はすでに開通している東海道新幹線、山陽新幹線と異なり、降雪地域を相当長区間高速するため雪対策に万全が期せられている。軌道側雪対策では線路わき空間に雪をためる貯雪式高架、軌道スラブのかさ上げ、散水消雪の工夫が、車輛側雪対策では飛雪方向を改善したスノープラウ、着雪防止のボディマウント構造と全周外ほろ、遠心分離式雪切装置つき空気取入れ装置などの工夫がなされている。東北新幹線は降雪対策のため全体の56%が高架橋部分となっている。

ホバー・クラフト

船体と地面又は水面との間に大気圧よりも高い圧力を保持することにより、船体を地面・水面のわずかに上であらって走る高速艇である。'59年にイギリスで作られた最初の試作艇ホバー・クラフトが一般名となった。日本では三井造船がこの種の旅客船「しぐなす」（全長25m、高さ8m、幅13m、総トン数50トン、速力55ノット）を建造している。現在実用的なホバー・クラフトは重量数十トン程度で百数十名を乗せうるにすぎないが、将来は1,000トン以上、速力80ノット以上のものも可能である。ホバー・クラフトの他、水中翼船、双胴船なども在来の内航旅客船では考えられなかった快速船であり、国内の交通高速化と快適性に貢献している。

OA

経営管理のための情報処理を従来の手作業からオートメーション化することである。経営管理のための空間的、時間的な場をオフィスとすると、情報機器群と人間がそこで有機的にシステム化され、人が目的に応じて即時的に情報処理ができるようにすることである。

OAなる用語は'50年代より用いられているが、その内容は変化している。初期にはEDP (electronic data processing) やミドル不要論を中心とするMIS (management information system) であった。現代のOAは人間と情報処理機械の共存するマン・マシン・システムを基盤とする。コンピューター専門家のような特定のプロに依存せず、オフィス全員が情報の処理・利用の当事者となる。OAの3種の神器はオフィス・コンピューター（オフコン）、ワード・プロセッサ（文書作成編集機）、ファクシミリ（複写電送機）であ

り、これらを軸に事務部門の合理化とオフィスの事務処理自動化が'70年代末から急速に実現されつつある。OAは現場でのオフィス・コンピューター利用に限らず、ペーパーレスによる事務コスト低減、企業のトップや中間管理者のためのマネージメント・オートメーションを旨としている。OAの進展により、従来のライン・スタッフ組織による垂直的経営システムは分散し、自立的・水平的な経営システムに変革されていくものとみられる。

産業用ロボット

ロボットは労働、賦役を意味するチェコ語で、チェコスロヴァキアの劇作家チャペックが戯曲の中で人造人間を指してこう呼んだため始まった。最近ではICの発達で産業用ロボットが脚光を浴び、溶接や重量物運搬など人間の手や腕の機能を代用する働きをしている。大量生産によるコスト・ダウン、省力化を旨として'60年代の後半以降普及した。導入が最も進んでいるのは自動車工業で、日産座間工場でも170台の溶接ロボットと8台の塗装ロボットが主役を演じている。家電関係でも生産工程の大部分がロボット化されている。コンピューターの発達に伴い、今では精密な視覚、聴覚を持ち、簡単な判断機能すら持つようになり、コスト・ダウンに加えて高付加価値製品を生み出す有力手段となった。無人化工場は夢ではなくなりつつある。

ロボットはSFマンガの世界から、ついに現実世界で活躍している。'62年、アメリカで開発された産業用ロボットは'67年に日本に紹介され、その後10年で日本の生産工場に浸透した。今やわが国は最先端の産業用ロボット生産国であり、輸出や技術協力も行なっている。日本は世界有数の産業用ロボット利用国であるが、その背景には協調的な日本の労使関係の存在が指摘される。A.トフラー（ブロックⅧのキーワード参照）によると、アメリカでは「'85年には自動車組み立てラインの20%、'90年には視覚触覚機能を持つロボットが人間に近い仕事をこなす」と予測されている。まさにロボット時代の到来である。

テレビ・ウォッチ

'82年6月、腕時計にTVを組み込んだ世界初のTV腕時計がセイコーグループの諏訪精工舎で開発された。TV画面のサイズは縦17mm、横25mmでTVといってもブラウン管は使用されず、電卓やデジタル腕時計でおなじみの液晶による画像表示がなされる。この超小型液晶画像ディスプレイは超高密度集積回路(LSI)の指示で光によって液晶が作動する仕掛けを持つ。TV腕時計は画像と時刻表示部のほか、ポケットに入るチューナー部、アンテナ兼用ヘッドホンの3点セットから成る。画像はモノクロである。カラーでなく小画面という問題点を持つこのTV腕時計は確かに珍しいが、一体どんな用途に使われるのだろうか。マイクロエレクトロニクスにおけるLSI技術の進歩は限りないけれども、必要以上の機能の追求は人間を忘れた技術の暴走でもある。超小型ラジオを組み込んだ腕時計も三洋電機によって開発され、'82年7月にアメリカでの発売が発表されている。

光ファイバー

オプティカル・ファイバー (optical fiber) ともいわれるガラス・ファイバー (ガラス繊維) の一種である。直径0.1mmで髪の毛のように細く、外側の屈折率が内側より大のためファイバーが曲がっても光がファイバーの中を進む特性を持つ。これを何本も束ね合わせたヒモ状のものが医学用ファイバースコープとして胃カメラなどに使われ、また通信工学の用途として光通信ケーブルにも応用されつつある。

光ファイバーの技術進歩は著しく、電々公社では直径0.125mmのガラス線一本で電話48万回線分の情報が送れる光ファイバーの開発に成功している。奈良県生駒市の双方向ケーブルTV「ハイオービス」ではTV局と家庭を結ぶケーブルに先端技術の光ファイバーが使用され、家庭とスタジオの間で互いに応答可能である。ガラスに代わるプラスチック製光ファイバーも短距離伝送用として使用期に入っており、三菱レーヨンが'81年暮から発売を開始している。

N A S A

NASAはアメリカの航空宇宙局の略称で、宇宙開発計画と航空探査推進のための大統領直属の国家機関である。ソ連のスプートニクに先を越されたスペース・ギャップに対する反省から、宇宙研究開発の一元化を図るためにアメリカ航空諮問委員会(NACA)を解消吸収し、'58年秋に設立された。V.ブラウン博士の所属する陸軍ミサイル研究班の仕事も吸収して、軍用以外の宇宙計画を一手に引き受けている。人工衛星、月ロケットなどを開発し、'69年アポロ計画の月着陸を成功させた。NASAの宇宙計画予算は'64年度510億ドル、'65年度530億ドルと飛躍的に増加したが、アポロ計画以後に規模が縮小した。'80年代にかけて最も力が入れているのは、反復使用可能な新型宇宙船スペースシャトルである。ナサ本部の傘下には、ワロップス・フライトセンター、ゴダード宇宙飛行センター、エイムズ・リサーチセンター、国立宇宙技術研究所、ケネディ宇宙センター、ホワイトサンズ試験場、ジョンソン宇宙センター、ジェット推進研究所がアメリカ各地に所在し、それぞれの宇宙開発が行なわれている。

おわりに

本稿では、Fig. 2の「Key Words Picture II」の配列順序に従って、ブロックⅠ～Ⅳまでの「国際問題」「時事問題」「学芸常識」「現代科学」に関するキーワードについて扱ってきた。後半のブロックⅤ～Ⅷについては別稿の「テレビ番組表からみた現代社会の諸相」(その3)において扱うので、全体のまとめはそこで総括することとしたい。従って、ここではひとまずのまとめに代えて、本稿の位置づけにかかわるいくつかの点について指摘しておく。

1. 「Key Word Picture I, II」に示されたキーワードの中には、改めて見直してみると、横文字用語やカタカナ英語がかなり目立っている。このことについて、筆者自身がそれらのワードに未知で耳馴れないために興味をそそられたからだと言い切ることはできない。日本語や漢字にはすでに一定の意味内容がこめられ、いわば多くの人々の「手アカ」がついているのに対して、横文字用語やカタカナ英語、外来語(たとえば、「シーレーン」「P3Cオライオン」「アビリンピック」「ホームヘルプ事業」「QC」「ホバークラフト」「OA」「テレビ・ウォッチ」「光ファイバー」などには新しい意味の付与や盛り込みが可能だからである。つまり、新しい時代感覚と新しい時代の必要性をそこに表現しやすいからである。またこれらのワードは日本人と外国人のコミュニケーション活動において共通の土俵を設定できる利点を持っているともいえる。

今日の日本社会が国際社会にコミットする局面が非常に多くなったことを反映して、現代はカタカナ英語横行の時代でもある。カタカナ英語の行き過ぎた流行のよし悪しの論議は別としてたしかにTV番組表にもカタカナ英語、横文字英語がよく出現している、これらの点から、キーワードの中には、「ASEAN」「OPEC」「サミット」「NASA」などの用語が見られるのだと考えることができる。

2. 「Key Word Picture I, II」に示されたキーワードは、はたして現代社会をどの程度代表しているといえるだろうか。それらの中には古い歴史をひもとかねばならないワードもいくつか含まれている。歴史抜きに現代社会の事象を語ることは何一つできないことも真実であり、たとえば、キーワード「戦艦大和」にしても、それが新たに現代に甦って我々に悲惨な戦争に対する反省と教訓を与えてくれているのである。また、別稿で扱うキーワード「人間万事塞翁が馬」にしても、はるか昔の中国の故事が、青島幸男の著書「人間万事塞翁が丙午」を通じて現代の我々に甦っているといえよう。過去の歴史的事実、歴史的遺産が現代に尾を引き、現代社会の骨格が形づくられているのである。この意味から、本年57年度から実施をスタート

させた高等学校の新設科目「現代社会」においても、その学習内容は特に現代的な事象にのみこだわりすぎることがあってはならない。まして進歩的なことがらのみを急いで教える必要もないといえよう。現代社会の諸事象のルーツを探ると、我々はおのずと歴史の中へと誘われる。深く探れば探るほど、過去の歴史へと誘われていくのである。現代社会と歴史との関係を一つの大きなダイナミズムとして理解する必要があるといえよう。

3. 現代社会を総合的、多面的に理解していくためには、新聞に掲載されるTV番組表は身近で親しみ易い一つの素材である。一般の市民、大衆が日常的に接触するTVのための番組スケジュール表には、雑多で玉石混交の現代社会が表現されている。TV番組表は現代社会のミニチュアであり「縮図」である。TV番組表は、いわば現代社会の「皮膚」であり表面である。これらの番組表の中から重要なキーワードを捜し当て、その一つ一つを掘り下げて、その「心臓部」に到達せんとする試みは現代社会の総理解につなげるものではないだろうか。この意味からも、ひとりひとりの生徒にとって、TV番組表は新設「現代社会」に最もふさわしい一つの「教科書」といえるのではないだろうか。つまり、「現代社会」の学習のためには検定教科書は必要でないとすら述べるができる。身近に接触する新聞、我々が日常的に視聴するTVの番組表をひとりひとりの教科書とすればいいからである。

参 考 文 献

- 1) 「毎日新聞」1981年7月1日号～1982年6月30日号
- 2) 伊佐治大陸：名古屋女子大学紀要，28，（その1），199～214（1982）
- 3) 自由国民社版：現代用語の基礎知識1982，自由国民社（1982）
- 4) 世界大百科事典34（現代），平凡社（1981）
- 5) 世界大百科年鑑1982，平凡社（1982）
- 6) 新村出編：広辞苑（第二版），岩波書店（1968）
- 7) 外来語辞典（第二版），角川書店（1977）
- 8) 朝日新聞編集局：現代のことば小辞典，朝日新聞社（1978）
- 9) 吉沢典男：図解外来語辞典，角川書店（1979）
- 10) 新数学辞典，大阪書籍（1979）
- 11) 朝日旅の百科・海外編3—スペイン1，朝日新聞社（1979）
- 12) 世界大百科年鑑1980，平凡社（1980）
- 13) 世界大百科年鑑1981，平凡社（1981）
- 14) 世界時事用語1743（'81毎日年鑑別冊），毎日新聞社（1981）
- 15) 現代情報科学研究所編：カタカナ新語のわかる本，現代出版（1981）
- 16) カタカナ用語と略語3300辞典，日本実業出版（1982）